

「静岡発こう読む」での連載も、本日が最後となった。2016年1月から開始し8年3カ月、数え間違いがなければ104回にわたり執筆してきた。第1回に掲載された自分の顔写真を見て、月日の流れを改めて痛感してしまった。

この連載で、定期的に書くことの難しさを知った。字数は900字程度、1カ月ごとなので大丈夫と思っていたが、原稿を送った直後から、次回のことが気になって落ち着かない。もし毎週だったら、と考えるのが恐ろしい。以後、あらゆるジャンルの連載を担当する方々への敬意が止まらない。

新聞連載なので、時事に関わる話題を入れるよう意識した。話題から直接伝えたいことを示せた場合もあれば、話題を使って、別のメッセージを届けようとしたものもある。これまで伝えきれたか心もとない。

その一方で、ずいぶん多くの人から「読みましたよ」と声をかけていただき、的確な感想をお伺いすることもあった。また、ある取材記事を題材にして原稿を書いた際、その取材を受けられた方から、「連絡と共に、貴重な資料をお送りいただいた。

一方通行的に情報を送り届ける新聞は、ネットのような双方向コミュニケーションが苦手だと思われがちだ。しかし応答はあるし、出会いもある。むしろネットの瞬間的で感情的な反応よりも、時間が経過することで、よく練られた的を射る質問やコメントが多い。返信は、速いだけが良いわけではない。

連載の間に、熊本、北海道、能登等で大きな地震が起こり、コロナで世界の景色は一変した。ウクライナだけでなくガザへの侵攻も始まった。連載開始時、安倍政権は絶頂期だったが、その頃に隠されていたことが、今、明るみに出つつある。AIの功罪が話題だが、結局は使う人間次第のようだ。そして何よりも、日本社会の人と人の関わり方が、大きく変わりつつある。

この連載は、こうした一連の出来事に対する、私なりの記録にもなった。この場への感謝とともに、筆をおきたい。

(静岡文化芸術大教授)